

1 見えますか？ 統計の未来地図

・ 6月5日、内閣府の「統計制度改革検討委員会」は約9カ月間の検討結果を公表しました。昨年9月に設置された委員会では、吉川洋東大教授を委員長に12名の委員が「統計制度の構造改革」について検討を重ねてきました。時代の変化に対応した新たな統計の仕組みを提言する、全54ページの報告書は「統計の未来地図」とも言えます。その中で注目すべきは、基本認識の転換です。

・ 報告書では「行政のための統計」ではなく「**社会の情報基盤としての統計**」を基本として、統計法の改正、公的統計の基本原則及び基本計画の明確化、行政記録の活用拡大、ビジネスフレームの整備、二次利用・民間委託の促進、司令塔機能の強化などを提言しています。時代は変わりつつあるんですね。

紫陽花（下田市観光協会HP）

2 パワーアップ！ 市町や県職員等が統計研修会

・ **研修その1** 統計利用室が毎年行う「統計研修会」。今年は6月5日、6日の丸々2日間、県庁会議室で開催され市町、県職員計30名が参加しました。なにしろ、総務省統計局テキストP286を一挙に勉強してしまおうというのですから、超短期決戦型の研修会と言えます。昼食後の魔の時間帯を乗り越え、テキストの文字を追い（追われながら？）無事、2日目15時、閉講式に辿り着いた受講生でした。

・ **研修その2** 研修会と言えば、6月7日と12日の2日間、商工会連合会主催の研修会で、経営指導員の皆さんが統計を研修する機会がありました。市町村合併後（42市町）の統計とその特徴、各種賃金統計を例にどの統計で何がわかるか、世論調査が全国標本2000人でも良い理由等、業務関連の統計ノウハウを学びました。経済統計室が行った参加者114名に対するアンケート調査結果は下記のとおりです。



（市町・県職員統計研修）

3 諦めません！「うん」と言うまでは（調査依頼の話）

・ 県が調査員と共同で実施する経済産業省「商業動態統計調査」。毎年7月が調査対象の交替月です。県経済統計室の商工係職員は手分けして新規事業所へ協力依頼の旅に出ます。「前にもやったんだよな〜」「忙しい！」「なぜうちが？」。全くその通りです、そうでしょう、そうでしょう。でもこの調査は地元経済や景気動向を把握して、的確な金利政策や中小企業対策を出動させる判断材料になるんですよ。「う〜ん」。

Q 統計に望むもの（複数回答）？

正確性	54%
迅速性	53%
調査の負担軽減	20%
利用サービス向上	18%
新分野統計の充実	15%
特に望みなし	1%
その他	1%